

## 巻頭言

# 新規医療機器を導入して

常日頃、市立札幌病院をご利用いただきありがとうございます。

私たち市立札幌病院では、常に治療の最前線にあって、なおかつ時代の要請、患者さんの要請にこたえて医療機器を更新してきました。昨年から今年にかけて導入いたしました高精度放射線治療システム、ハイブリッド手術室、ロボット支援手術につき説明いたします。

### 高精度放射線治療システム

2013年6月から稼働しています。特徴としては、従来の放射線治療と異なり、高度なコンピュータ制御によって正確な照射野の設定が可能であることです。強度変調放射線治療(IMRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)、呼吸同期照射(RPM)などが可能になりました。そのため放射線を集中して治療ができることになり、病変部分に照射できる線量を増やすことができるため、治療成績の向上が見込まれます。また、周辺の影響も最小限に抑えられることから、有害事象の発生を抑制することが期待できます。

約1年経過して、前立腺癌、乳癌、頭頸部癌などの患者さんを多くの連携医療機関の先生たちからご紹介いただき治療させていただきました。ありがとうございました。患者さんのQOLを損なわずに治療できることから、これからも多くの患者さんを紹介していただき、治療させていただきたいと考えております。

### ハイブリッド手術

2014年3月から稼働しています。ハイブリッド手術室とは、外科手術とカテーテル治療の両方が実施可能な手術室のことを意味します。ハイブリッド手術室のメリットとして最大のものは、カテーテル治療中の緊急事態に直ちに対応できる点があげられます。従来はカテーテル実施中の部屋から手術室に移動して対応していましたが、このハイブリッド手術室であれば直ちに開胸開心術に移行することが可能です。患者さんの緊急事態に可能な限り安全に対応できる態勢が整えられました。

また、高精度の血管撮影装置が備え付けられているため、術中に高画質で鮮明な画像が撮影できる点が優れています。そのため患者さんは同じ操作を行うにしても、被爆線量を少なくすることが可能となり、負担が少なく処置できるようになりました。さらに、手術時間の短縮にもつながっております。

市立札幌病院院長  
地域連携センター長

関 利盛



従来の冠動脈バイパス手術では、術後に血管造影検査を行って、術後の評価を行っていましたが、このハイブリッド手術室ではその場で治療の成否が判明するため患者さんへの対応が迅速にできるようになりました。

患者さんへの安全性が高くなり、利便性が良く、迅速に対応できることから、ますます対象となる患者さんの治療に励みたいと考えております。

### ロボット支援手術

2014年5月から稼働しています。da Vinci Si といいます。このロボット支援手術は、現在のところ前立腺癌に対する根治手術に対して保険適応があります。特徴としては、傷が小さなことから術後の回復が従来の開腹手術に比べて優れているとされています。

また、術後尿失禁や勃起障害に関しても優れていると報告されています。現在は根治的前立腺全摘にのみ保険適応ですが、婦人科領域、骨盤外科領域、消化器外科領域、胸部外科、耳鼻科などにも適応が広がると考えられています。患者さんの術後回復が優れている点から、今後も前立腺癌の患者さんに対しては、ロボット支援手術を第一選択として考えていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

以上、昨年から導入した新規導入機器のうち、特に主だった機器につき説明いたしました。是非これらの当院の医療資源を有効に活用していただき、連携施設に受診中の患者さんを当院で治療させていただき、逆紹介したいと考えております。

職員一同、努力しますので是非よろしく願いいたします。



強度変調放射線治療【IMRT】